

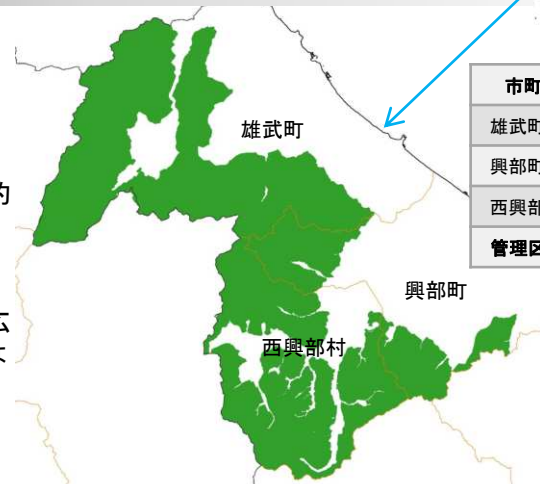


北海道有林野 整備管理計画（網走西部管理区）の概要



管理区の概要

- ・当管理区は、北海道の北東部に位置し、興部町、西興部村、雄武町の3町村にまたがりオホーツク海に面した山岳・丘陵地帯に所在しています。
- ・管理区内にはウエンシロ岳から札滑岳の山頂周辺は「天塩岳道立自然公園」に、また、ピヤシロ岳及びピヤシロ高原湿原は「松山ピヤシロ道自然環境保全地域」に指定されており、学術的に貴重な自然環境が存在しています。
- ・管理区全面積が、国際森林認証制度SGEC/PEFCジャパンの認証森林となっており、持続的な森林経営を行っています。
- ・森林面積は約66千haであり、天然林は針広混交林が6割、広葉樹林が4割となっており、代表的な樹種としては、針葉樹ではトドマツ、エゾマツ、広葉樹ではカンバ類、ミズナラ、シナノキとなっています。

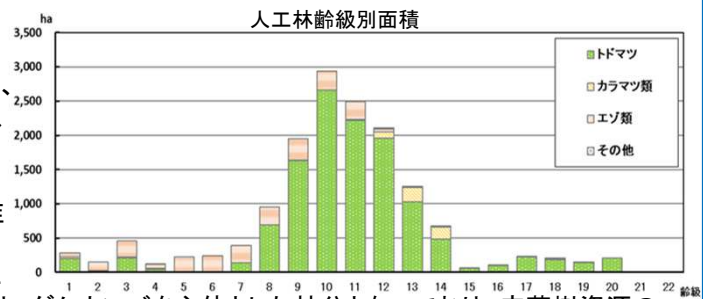


市町村	面積 (ha)
雄武町	33,347
興部町	10,278
西興部村	22,644
管理区計	66,268



多様で先導的な森林づくりに係る取組

- ・10齢級以上の人工林が面積で56%、蓄積で77%を占め、利用期に達した林分が多いため、単層林施業地、複層林施業地では積極的に主伐を進め、人工林を維持していきます。また、間伐遅れの林分や間伐が必要な林分は積極的に間伐を進め、人工林材の安定供給を図ります。
- ・更新計画量は、前計画と比較して実面積で5%増になりますが、現在、地拵機械が導入されており、積極的に機械地拵を推進し、軽労化に努めます。
- ・天然林については、たびたび林野火災が発生し、山火事跡には現在、約6,900haの山火再生林が広がっています。現在は、ダケカンバを主体とした林分となっており、広葉樹資源の持続的な利用に向けて、衛星画像や航空レーザ計測などのICTを活用した資源把握に取り組めます。



○目標の指標

【育成単層林・育成複層林・天然生林別面積(単位:ha)】
森林の区分に応じた適切な森林の整備や保全の実施により、多様な樹種や林齢からなる森林の育成を目指します。

区分	令和元年度	令和13年度
育成単層林	13,363	13,000
育成複層林	11,434	11,823
天然生林	41,472	41,446

○計画量

【伐採材積】 (単位:千m ³)			【更新面積】 (単位:ha)			【路網開設】 (単位:km)		
区分	前期	後期	区分	前期	後期	区分	前期	後期
主伐	129	168	人工造林	382 (589)	464 (746)	林道	-	-
間伐	217	188	天然更新	7 (14)	- (-)	林業専用道	1.5	3.9

※括弧内の数値は区域面積

資源や技術力を活用した地域貢献に係る取組

- ・傾斜が緩やかな人工林伐採跡地において大型機械による地拵えを実施したり、コンテナ苗の活用や列状間伐の推進により、森林施業の低コスト化・省力化を図ります。
- ・一般民有林の森林整備が図られるよう、森林組合等と協定等を締結し、路網や土場の共同使用など共同施業・共同出荷について取り組みます。
- ・機械の導入や雇用の確保に取り組む地域の林業事業者を育成するため、安定的な事業量の確保及び計画的な発注に努めるほか、計画的な雇用の確保や設備投資を促進するため、林業事業者と協定を締結し、複数年にわたって連携して造林や保育、伐採などの森林整備に取り組めます。
- ・地域への森林認証材の安定供給に向け、CoC 認証事業者に限定した入札による立木販売を行います。
- ・低コスト施業の知識向上を図るため、機械作業を前提とした造林地の造成について、地元林業事業者などとも連携しながら、新たな技術の開発について取り組みます。
- ・木育マイスター等による森林体験学習や小中学校の林業現場見学等の場として、積極的にフィールドの提供を行います。



機械地拵カラマツ植栽地

○目標の指標

【森林づくりに伴い産出される木材の量】
道民生活に木材・木製品の利用が定着し、道有林の森林づくりに伴い産出される木材が有効に活用されることを目指します。

61千m ³ /年 (平成29～令和2年度 までの実績平均)	➡	71千m ³ (令和13年度)
---	---	-------------------------------